

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	観光地等クリーンアップ事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
				観光リゾート産業の振興				
担当部課名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本村に数多く点在する史跡や文化財を地域資源として活用していくため、村内の各種イベントで使用する会場や観光施設、観光ルート等の草刈作業や花壇等の環境整備を行い、花木の植栽など美化活動を行う。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)							
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	32,711	35,000	35,000	35,000	35,000	
		(b) 予算現額	32,711	35,000	29,600	39,084	35,000	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 5,400	4,084	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	32,711	35,000	29,600	39,084	35,000	
	B. 執行済額		24,426	26,719	28,730	39,084	34,027	
	うち交付金充当額		19,540	21,375	22,983	31,267	27,214	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		74.7%	76.3%	97.1%	100.0%	97.2%	
予算の状況の説明		当初予算額より2.8%減額となったが、その要因として雨天時及び台風等により作業中止となったことが原因であると考え るが、ほぼ予定していた計画どおり執行でき適正であった考える。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	観光ルート等の雑草の除去及び花木の植栽、肥培管理の実施		目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
	まつり会場(1カ所)、フットパスコース(1カ所)、集落内外(5カ所)、フラワーロード(4カ所)、観光施設等(5カ所)		実 績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	観光ルート等の雑草の除去については現場の状況に応じた草刈り作業を実施するとともに、花木の植栽や植栽後の定期的な肥培管理についても、散水・草取り作業・追肥等を計画的に実施することができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	美化緑化整備箇所:16箇所		目 標	()	(15箇所)	(15箇所)	(16箇所)	()
			実 績		15箇所	16箇所	16箇所	
	【H30成果目標】 観光地周辺の景観形成について、観光地としてふさわしい景観であると感じるかを含め(80%以上)、当該事業のあり方をアンケート調査により検証する。		目 標	()	()	()	()	80%
	進捗状況説明	美化緑化整備箇所については、村内各種イベント等の美化活動及び観光ルートの除草作業や花壇等の花木の植栽及び肥培管理など計画的に実施することができ、目標を達成した。						

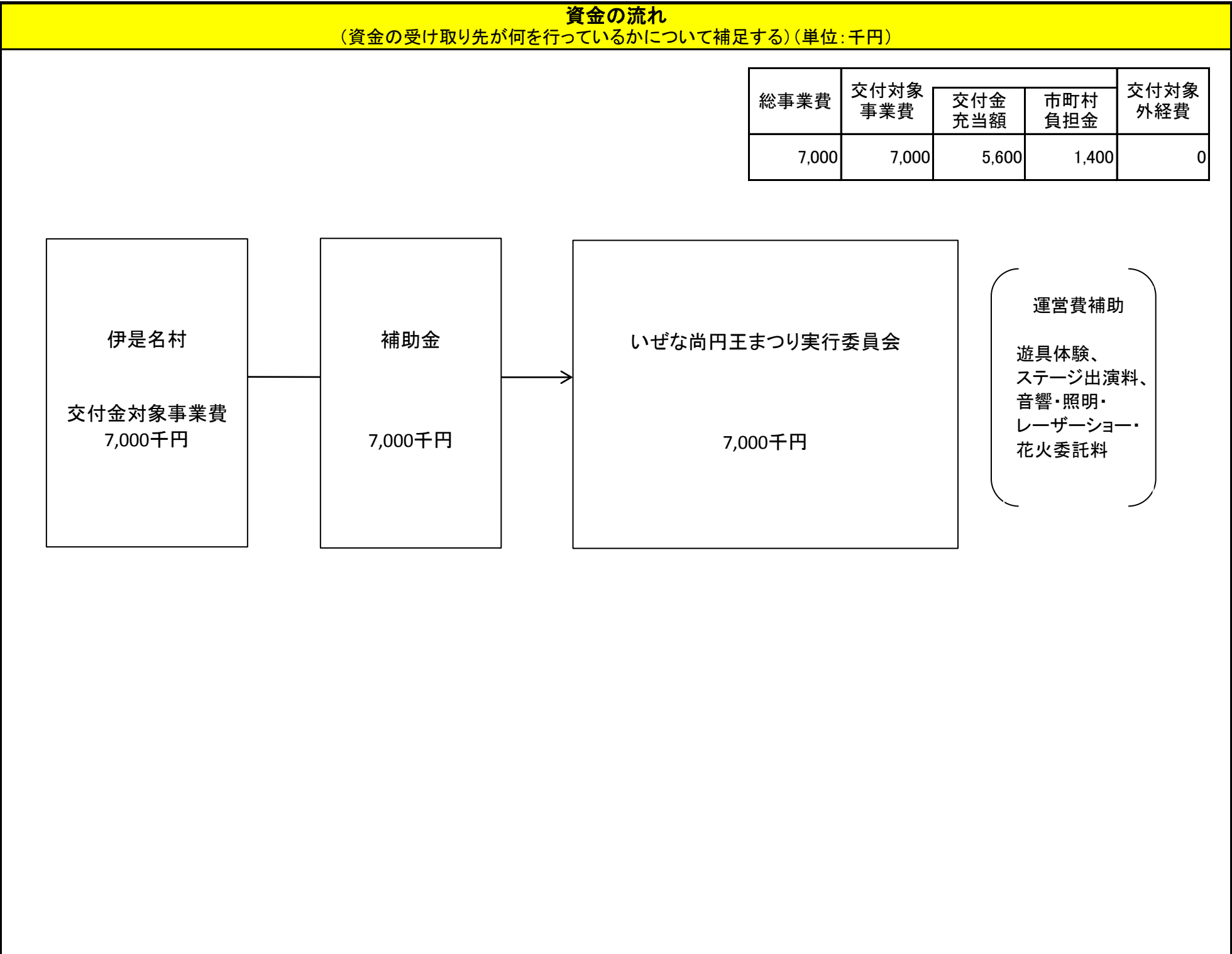
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・伊是名村への観光客の受入に向けて、引き続き観光地及び観光ルート等の景観の維持、向上を図る必要がある。 実施にあたり、草木伐採の繁忙期及び夏場の猛暑時期において、作業効率が悪化したことで、除草作業に支障が生じる場合があった。	・作業工程の簡略化や、作業員の配置見直し、猛暑の時間帯における休憩の推奨等により、作業員が作業を能率的に実施できる環境を整備することで、草木伐採の繁忙期及び夏場の猛暑時期においても、作業の効率化が図られるものと考えられる。
今後の取り組み方針		
・専用の公用車の導入による作業工程の簡略化、作業計画の見直しや配置、作業箇所の振り分けについて検討を行うとともに、併せて、雇用形態についても見直しを行い、年間を通して雇用を確保できるようにしていくことで、就労意欲の向上を図る。また、猛暑時における休憩時間の確保や、定期的な作業員の安全教育の実施などにより、体調管理等を含め、作業効率の維持・向上に努めていける環境を構築する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
				<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金 充当額</td><td>市町村 負担金</td><td>交付対象 外経費</td></tr><tr><td>34,027</td><td>34,018</td><td>27,214</td><td>6,804</td><td>9</td></tr></table>	総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	34,027	34,018	27,214	6,804	9
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
34,027	34,018	27,214	6,804	9										
伊是名村 交付対象事業費 34,027千円	共済費	臨時職員社会保険料 15名												
	3,908千円													
	賃金	臨時職員賃金 15名 (うち対象外経費 9千円)												
	24,893千円													
	需用費	消耗品及び燃料費												
	2,050千円													
	役務費	通信運搬費												
148千円														
使用料及び賃借料	重機等使用料													
443千円														
原材料費	花の種苗代、肥料代等													
2,585千円														

資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定について、臨時職員は公募により雇用を行っており、その他の需用費・役務費等についても村の会計規則等に基づき適切に選定されている。 ○予算規模については、当初予算より3%程不用が生じたが、賃金の実績精算等に係る不用であり、当初見込の規模としては適正であった。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-②	いぜな尚円王まつり支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
				観光リゾート産業の振興				
担当部課名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本村の魅力を発信し、観光客の誘客を図るため、いぜな尚円王まつりにおいて、各字・島外文化交流、マリンレジャー、スポーツ交流、各種体験プログラム等を実施する。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)							
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			24年度	25年度	26年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	7,340	7,000	6,000	6,000	7,000	
		(b) 予算現額	7,340	6,000	6,000	6,000	7,000	
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 1,000	0	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	7,340	6,000	6,000	6,000	7,000	
	B. 執行済額		7,339	6,000	6,000	6,000	7,000	
	うち交付金充当額		5,871	4,800	4,800	4,800	5,600	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		計画どおり執行し、適正であったと考える。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				25年度	26年度	28年度	29年度	
	いぜな尚円王まつりの開催支援		目 標	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	
			実 績	開催支援	開催支援	開催支援	開催支援	
達成状況説明	開催にあたり、実行委員会への支援を行うことで、例年と同様の規模で開催を行うことができた。 イベントの実施にあたっては、各種体験プログラムとして遊具体験などを実施したほか、誘客のためのステージイベントとして、キャラクターショーやアーティストライブの実施、レーザーショー及び打上花火等を実施した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	26年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
			目 標	()	(2,000人)	(2,000人)	(2,000人)	()
	いぜな尚円王まつりの来場者数:2,000人 (参考 H28来場者数:1,040人)		実 績		2,000人	1,040人	740人	
	進捗状況説明	いぜな尚円王まつりの来場者数については、目標:2,000人に対して、740人の来場者となり、目標の達成ができなかった。 要因としては、併せて実施することを予定していた少年サッカー大会等が延期となったことがあげられる。 目標としている26年度実績(2,000人)については、「尚円王生誕600年祭」のプレイベントとして大々的な告知やイベントを実施するなど、通常とは異なる条件下において開催されたものであるため、目標値の設定としては、再度、検討を要する必要がある。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・イベントの認知度向上、また本イベントに独自性をもたせることで来島動機を高めるなど、誘客の仕組みの構築を行うことで、来場者数の増につなげていく必要がある。 ・成果目標については、特殊事情(600年祭に向けたプレイベントとして大規模に実施等)により来場者数が増えた26年度の数値のままでよいかどうか、再度検討することで、事業実施後の適切な振り返りができる体制を整える必要がある。	・「いぜな尚円王まつり」と題しているが、尚円王の歴史等について、踏み込んだ内容が薄いため、内容面の充実及び島外でのPR方法について改善の余地があるものと考えられる。 ・指標については、26、28、29の実積を踏まえ検討を行うことで、適切な指標を再度設定することに繋がる。
今後の取り組み方針		
・本イベントにおいて、「王様が生まれた島」としての立ち位置を活用し、伊是名島およびその歴史の認知度を高められるよう更にPRしていくことで、本村への観光誘客につなげていく。具体的な取り組みとして、まずは本イベントにおいて、これまでのまつり会場内においてのみ実施可能なイベントを行っていくという方針から、島内における尚円王関連の史跡等を活用したイベントプログラムについて併せて実施していくという方針へ転換し、企画運営を行えるよう取り組んでいく。また、併せて離島フェアなどの島外イベントにおいてもPRを実施できないか検討していく。 ・指標については、特殊事情のない28,29の実積の内、最大値である1,040人の来場者を当面の目標として、平成30年度は取り組んでいくこととする。次年度以降については、30年度の実積も踏まえつつ、再度検討を行いながら、徐々に来場者数を増やしていけるよう取り組みを継続していく。		



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会形式の団体への支出であり、選定については妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-④	「尚円王(金丸)生誕の村」整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア				
				沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり				
担当部課名	教育振興課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)			
事業内容	魅力ある歴史の島づくりを進め、更なる誘致による観光振興を図るため、PR活動を行う一方、尚円王に関する史跡等の整備・復元を行う。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(30年度)							
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	42,973	76,886	80,000	42,606	31,900	
		(b) 予算現額	56,685	95,571	80,491	34,350	31,900	
		(c) 増減額(b-a)	13,712	18,685	491	▲ 8,256	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	56,685	95,571	80,491	34,350	31,900	
	B. 執行済額		39,348	76,354	73,075	32,586	29,028	
	うち交付金充当額		31,478	61,082	58,459	26,068	23,222	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		69.4%	79.9%	90.8%	94.9%	91.0%	
予算の状況の説明		平成29年7月31日、「玉御殿」が国指定重要文化財に登録されたことを受け、当初計画していた玉御殿保存修復関連業務について、本事業での実施を見送ったことから、2,872千円の不用額が生じた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	みほそ所修復工事	目 標	()	(実施)	()	()		
		実 績		実施				
	旧蔵品修復・復元業務	目 標	(実施)	(実施)	()	()		
		実 績	実施	実施				
	玉御殿保存修復整備設計業務	目 標	()	(実施)	()	()		
		実 績		未実施				
	達成 状況 説明	史跡「みほそ所」保存修理工事を行い、樹根による影響がみられた基壇などの保存修理を実施した。 銘苅家・名嘉家旧蔵品修復・復元業務については、銘苅家・名嘉家の旧蔵品である、古文書、漆器類、金工品、陶器類の修復や復元、図面作成を行った。 玉御殿保存修復整備の設計に関しては、当該文化財が国指定重要文化財に登録されたことから、当事業での実施ではなく、文科省の事業により実施する方向で検討することとなったため、未実施となった。						
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (30年度)
①みほそ所修復工事の完了		目 標	()	()	(完了)	()	()	
		実 績			完了			
②旧蔵品修復・復元の完了		目 標	()	(完了)	(完了)	()	()	
		実 績		完了	完了			
③玉御殿保存修復整備実施設計業務完了		目 標	()	()	(完了)	()	()	
		実 績			未完了			
【H30成果目標】 旧蔵品を活用した祭事への来場者数		目 標	()	()	()	()	100人	
進 捗 状 況 説 明		①みほそ所修復工事については、村文化財保護審議会の意見等も踏まえた上で実施し、工事を完了することができた。 ②銘苅家・名嘉家の旧蔵品修復・復元については、漆工芸、古文書、金工品、陶器類の調査・修理・復元を実施し、完了することができた。 ③玉御殿保存修復整備実施設計業務については、事業の見直しにより、未実施となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・旧蔵品の修復については、熟練した技術を要する職人による手作業となることから、1件あたりの作業時間が膨大となるため、計画的且つ継続した事業の実施に取り組む必要がある。 ・修復した旧蔵品等については、文化財として保存を図るとともに、学校教育等の教材として活用することによる島内の子どもたちが生まれた島に誇りを持っていけるような機会の醸成に繋げる、尚円王生誕の地としての本村のPR等に繋げるなど、積極的な利活用を図っていく必要がある。	・旧蔵品の修復にあたっては、複数年度を見通した修復計画を検討することで、計画的な事業実施に資すると考えられる。 ・保存修理の完了した史跡、旧蔵品について積極的な活用・情報発信を図っていくとともに、利活用状況等を適切に把握することで、PR方法や活用方法の見直し等について適宜行えるようになるものと考えられる。
今後の取り組み方針		
・修復対象品目の選定にあたっては、事前に必要性、緊急性等を勘案し、翌年度以降にどの品目を修理・復元の対象とするかを事前に検討しておくとともに、劣化具合等を継続的に把握することで、必要に応じて優先度の再検討を行い、事業を実施していく。 ・保存修理工事や修復が完了した文化財については、ホームページ等を活用して情報発信を行うほか、観光資源としてだけではなく、地域における文化財への意識高揚等を図る取り組みを実施する。併せて誘客等の状況を把握するにあたり、整備した文化財やそのレプリカを活用した祭事等への来場者の把握を行うなど、可能な限り活用状況の把握に努めていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>29,028</td><td>29,028</td><td>23,222</td><td>5,806</td><td>0</td></tr></table> 伊是名村 29,028千円 委託料 29,028千円 工事請負費 13,500千円 株式会社 国建 1,850千円 一般財団法人沖縄美ら島財団 13,678千円 有限会社 大翔建設 13,500千円 みほそ所保存修理工事 現場技術業務委託 銘苅家・名嘉家旧蔵品 修復復元業務 みほそ所保存修理工事					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	29,028	29,028	23,222	5,806	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
29,028	29,028	23,222	5,806	0										
資金の 用途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○みほそ所保存修理工事現場技術行務委託ならびに、みほそ所保存修理工事業務については、指名競争入札で業者を選定。銘苅家・名嘉家旧蔵品修復・復元業務については業務の特殊性を踏まえて、複数の業者からの見積りにより選定していることから、適正であった。 ○予算規模については、事業内容に見合った適正な規模であったと考える。 ○実績により書類等を精査し、委託料を確定しており、妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		1-⑤	伊是名モータースポーツ支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア			
						観光リゾートの振興			
担当部課名		建設環境課	事業実施 (予定)年度	平成26年度～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)			
事業内容		観光誘客を促進するため、場外離着陸場を活用した新たなイベント事業として、モータースポーツ大会を支援する。							
効果発現年度		■当年度 □後年度(年度)							
実施方法		■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)				26年度	27年度	28年度	29年度	年度	
		予算 の 状 況	(a)当初予算額	7,317	17,942	15,030	11,722		
			(b)予算現額	15,044	11,324	12,372	11,722		
			(c)増減額(b-a)	7,727	▲ 6,618	▲ 2,658	0		
			(d)繰越額	—	—	—	—		
			A. 計(b+d)	15,044	11,324	12,372	11,722		
		B. 執行済額		12,404	11,324	12,336	10,282		
		うち交付金充当額		9,922	9,059	9,868	8,225		
		次年度繰越額		0	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)		82.5%	100.0%	99.7%	87.7%		
予算の状況の説明		台風の影響により大会の開催数が減ったことで、1,440千円と12%程度の不用が生じたが、それ以外は適正な執行であったと考える。							
活動目標 (指標) 及び達成状況		H29活動目標(指標)		達成状況					
					26年度	27年度	28年度	29年度	
		ドラッグレース大会の開催:2回	目 標	(開催支援)	(開催支援)	(3回)	(2回)		
			実 績	開催支援	開催支援	3回	2回		
		スーパードリフト大会の開催:2回	目 標	(開催支援)	(開催支援)	(3回)	(2回)		
			実 績	開催支援	開催支援	2回	1回		
		ジムカーナ大会の開催:3回	目 標	(開催支援)	(開催支援)	(2回)	(3回)		
			実 績	開催支援	開催支援	2回	3回		
達成 状 況 説 明	それぞれの大会における関係スタッフの船賃、レース車及び関係車両の航送料の助成、マスコミを活用しての事前コマーシャルを行う等、開催支援を行った。 ドラッグレース大会及びジムカーナ大会については計画どおり開催することができた。 スーパードリフト大会については、台風の影響で1大会が中止となった。								
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
		①ドラッグレース大会来場者数:160人	目 標	()	(200人)	(300人)	(160人)	()	
			実 績		150人	475人	439人		
		②スーパードリフト大会来場者数:160人	目 標	()	(400人)	(400人)	(160人)	()	
			実 績		640人	325人	117人		
		③ジムカーナ大会来場者数:240人	目 標	()	(100人)	(200人)	(240人)	()	
			実 績		100人	176人	358人		
		【H30成果目標】 来場者数		目 標	()	()	()	()	1,320人
進 捗 状 況 説 明	①ドラッグレース大会及び③ジムカーナ大会については、計画どおりの開催につなげたことで、来場者数については成果目標を達成することができた。 ②スーパードリフト大会については、9月16日の大会が台風の影響で中止となり目標を達成することができなかった(要因:平成29年度は2回開催予定が、1回のみで開催となったため)。								

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	・島外からより多くの観戦者を受け入れられるようにするためには、通常の船舶の運航タイムスケジュールでは日帰りが困難であるなどの課題が生じるので対応が必要。 ・全国にモータースポーツを通して「伊是名島」の知名度が一定程度広まり（新聞、モータースポーツ全国誌特集で掲載など）、来場者のリピーターも徐々に増えているが、イベントの事前宣伝についてはラジオCMによる広報や、イベントポスターを主催者のホームページ等へ掲載、発信する方法が主となっており、媒体が限られていることから、大会認知度の向上により努めていく必要がある。 ・会場への来場者は、大人1人だけでの来場ではなく、家族連れやグループでの来場など、幅広い年齢層が来場している。長時間イベントの開催については、天候（下記の猛暑や冬季の冷え込み、急な雨等）に対する備えやその他イベント（レース観戦だけだと途中で飽きてしまう可能性あり）の充実を検討する必要がある。 ・来場者が長時間一定のエリアで過ごすことになる本イベントにおいて、飲食テナントの出店が少ないほか、出店があった際においても提供品目が少ないため、来場者から問い合わせが寄せられることがあるなど、観光イベントとしては、受け入れ体制に課題が生じている。	・大会開催時には、日帰りも可能な運航スケジュール計画（臨時便の増便）を検討することで対応が可能となる。 ・大会認知度の向上に向けたPR活動について、過去の状況を踏まえ、主催者等と調整し、見直しを行う必要がある。 ・急な天候の変化に対応できるような取り組みの検討、体調不良等への対応策を検討し、イベントを最後まで楽しめるような仕組みを構築する必要がある。 ・飲食ブースについては、伊是名村商工会や地元青年会等と協力し検討することで、対応を行っていくことが有用である。また、全員が一定エリア内でしか過ごせない（イベントがそこでしか行われていない）ことから生じる課題であるため、希望者に対しては村内の周遊が可能となるような取り組みを実施するなどの対応を行うことで、観光イベントとして、受け入れ体制の改善に繋がるものと考えられる。

今後の取り組み方針
・島外からより多くの観戦者を受け入れるため、引き続き船舶の運航日程の変更（臨時便の増便）を行うことにより、イベント時の需要に合わせて対応していく。 ・本島や県外への告知（ポスター掲示等）やインターネットなど、より活用した宣伝方法を主催者と協力しながら新しい方法を模索、実行していくほか、大会の模様を新聞に掲載するなどの取り組みができないか検討し、より多くの人にモータースポーツの楽しさ、魅力を発信していけるよう努めていく。 ・会場の受け入れ体制については、夏場や寒い時、急な大雨にも極力対応できるよう休憩スペース（テント増設）や備品保管のプレハブも退避スペースにする等改善を図る。また急な体調不良の選手、お客さんに対応できるようシャトルバスを救護スペースとして活用し、長時間会場で過ごすため、時間を持て余したりレース観戦のみでは飽きる方への対応として、キッズスペースや音楽ライブのイベント内での実施など、子どもから大人まで楽しめるコンテンツを増やしていけないか検討を行う。 ・飲食ブースについて伊是名村商工会、地元青年会などの出店、島の特産品なども販売できるよう協力を要請していく。そのほか、本イベントの趣旨である伊是名村のPRに資する取り組みとして、また、イベント中のマンネリ感の防止に資する取り組みとして、希望者に対し村内視察等が実施できる体制がとれないか、検討を行う。

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		10,282	10,282	8,225	2,057	0
伊是名村 10,282千円	共済費	→ 臨時職員(1人) 266千円				
	賃金	→ 臨時職員 1,886千円				
	需用費	→ 消耗品費(クラッシュパットカバー、消耗品) 50千円 燃料費 73千円				
	役務費	→ 通信運搬費(車輛航送費等) 4,484千円 広告料(ラジオCM) 1,493千円				
	委託料	→ 事業PR(小規模ライブ) 450千円				
	使用料及び賃借	→ 使用料(フォークリフト、マイクロバス、簡易トイレ) 765千				
	原材料費	→ トンブロック 74千円				
	備品購入費	→ フロアー 75千円				
使 途 の 点 検 評 価	資金の流れ、費	評価	点 検 項 目		評価に関する説明	
		○	支出先の選定方法は妥当か。		○見積により選定しており、妥当であったと考える。	
		○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○事業内容に見合った予算規模であり、適正であったと考える。	
		—	受益者との負担関係は妥当であるか。			
		○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。	

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑥	いいな運天港いちやり場まつり支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ		
				観光リゾート産業の振興				
担当部課名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成26年度～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	三村の交流を図るとともに、観光誘客を促進するため、伊是名村・伊平屋村・今帰仁村の三村共同で、「いいな運天港いちやり場まつり」を支援する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	800	1,100	1,100	1,300		
		(b) 予算現額	1,100	1,100	1,100	1,300		
		(c) 増減額(b-a)	300	0	0	0		
		(d) 繰越額	—	—	—	—		
		A. 計(b+d)	1,100	1,100	1,100	1,300		
	B. 執行済額		1,093	1,100	1,064	1,300		
	うち交付金充当額		874	880	851	985		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		99.4%	100.0%	96.7%	100.0%		
予算の状況の説明		計画どおり執行し、適正であったと考える。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	「いいな運天港いちやり場まつり」の支援		目 標	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)	
			実 績	支援実施	支援実施	支援実施	支援実施	
達成 状 況 説 明	活動目標を達成するために、「いいな運天港いちやり場まつり」の支援を行った。 昨年に引き続き羽地内海のフェリー遊覧ツアーを実施するなど、イベントへの誘客に向けた取り組みを実施することができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	29年度	
	「いいな運天港いちやり場まつり」の実施による三村の交流		目 標	()	(交流実施)	(交流実施)	(交流実施)	(交流実施)
			実 績		交流実施	交流実施	交流実施	交流実施
	来場者数:1,200人		目 標	()	()	()	()	(1,200人)
			実 績					740人
	進 捗 状 況 説 明	「いいな運天港いちやり場まつり」を実施することにより、三村の特産品の販売や、地元の子どもや婦人会などによる芸能演舞、演奏等のステージ参加、合同での準備等をおとして、三村の住民同士の人的、文化的、経済的な交流を図ることができた。 羽地内海の遊覧ツアーの実施や、特産品販売等を通して、把握できた人数のみで少なくとも740人の来場者があったが、成果目標の達成には至らなかった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・会場である運天港は、市街地から離れた場所にあるため、三村以外からの誘客を行うことが難しい状況にある。 ・来場者数については、祭りのエリアが入場を規制できるような場所ではないことから、その把握が難しく、遊覧船への乗船者数や特産品の購入者数などからカウントを行っており、来場者数の正確な把握が行えていないため、来場者数をできる限り正確に把握する方法を検討する必要がある。	・住民の交流や三村の魅力のPRの機会の確保に向けて、運天港の立地を生かしたイベント等を計画・実施するとともに、効果的なPRに努めていくことで、来場者の増加を図るとともに、満足度を高めていくことで村外からのリピーターの確保に努めていく必要がある。 ・来場者数のカウント方法については従来の方法に代わる複数の方法を実行委員会内で検討し、有効と思われる手法に取り組むことで、実数の把握に努めていく。
今後の取り組み方針		
・三村で共同して実施する事業であることから、足並みを揃えて取り組んでいけるよう、定期的に協議・連絡を実施し、三村の連携を強めていく。30年度においては、来場者に好評であったフェリーの借り上げによる遊覧船の取り組みについてはコースや時間等について検討しつつ継続して実施していくほか、特産品の出品や、祭りへの出店者の増など、普段伊是名村に来なければ触れ合えない体験を祭り来場者の方が実感できるような取り組みを実施できないか、村内関係者へ呼びかけるなど行って、イベントの魅力向上及び効果的なPRに努めていく。 ・来場者数の把握を行うべく、イベント会場内で複数の人間によって定時的にカウントを行う、全体の鳥瞰写真による来場者数のカウントを行う、駐車場やフェリーなどの来場のために必要な交通手段の面からカウントを行うなど、その他の手法も含めて実行委員会でより適切と考えられる手法を検討し、来場者数の実態を正確に把握できるよう努めていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		1,300	1,232	985	247	68

伊是名村

交付対象
事業費

1,300千円

補助金
1,300千円

三村交流事業実行委員会
1,300千円

(
いいな運天港いちやり場まつり補助
金
)

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は三村交流事業実行委員会(事務局・今帰仁村)への補助金であり、適切である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についても事業内容に見合った規模を補助金として支出しており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村									
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1-⑦		沖縄らしい風景づくり推進事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-1-(6)-ア	
									沖縄らしい風景づくり	
担当部課名	企画政策課			事業実施 (予定)年度	平成26年度～33年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-10-(1)	
事業内容	魅力的な観光地としての景観形成を図るため、景観形成活動を行う団体を支援する。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	年度			
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,400	5,750	1,000	7,000				
		(b) 予算現額	4,400	1,000	7,000	1,000				
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 4,750	6,000	▲ 6,000				
		(d) 繰越額	—	—	—	—				
		A. 計(b+d)	4,400	1,000	7,000	1,000				
	B. 執行済額		400	1,000	6,645	1,000				
	うち交付金充当額		320	800	5,316	800				
	次年度繰越額		0	0	0	0				
	執行率(%) (B/A)		9.1%	100.0%	94.9%	100.0%				
予算の状況の説明		当初は赤瓦助成及び団体助成として予算を計上したが、赤瓦助成の該当者がいなかったことから年度途中で事業費を6,000千円減額した。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況						
					26年度	27年度	28年度	29年度		
	景観形成への支援 団体支援 5団体			目 標	(赤瓦助成1件 団体助成2件)	(赤瓦助成1件 石垣助成1件 団体助成5団 体)	(団体支援5団体 赤瓦助成1件)	団体支援5団体		
				実 績	団体助成2件	団体助成5団体	団体支援5団体 赤瓦助成1件	団体支援5団体		
達成 状 況 説 明	景観形成活動団体として登録された5団体へ助成し、花植え活動や雑草・雑木の繁茂を抑制するなど、各団体が、その地域の雰囲気になさわしい景観づくりを行った。景観形成活動により、住民の景観に対する意識向上を図ることができた。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)	
	景観形成活動支援(5団体)の完了			目 標	()	(団体助成 5団体)	(5集落 1件)	(5団体)	()	
				実 績		団体助成5団体	5集落 1件	5団体		
	【H30成果目標】 観光地としてふさわしい景観であると感じる かを含め(80%以上)、当該事業のあり方を アンケート調査により検証する。			目 標	()	()	()	()	80%	
	進 捗 状 況 説 明	景観形成活動支援については、5団体へ支援を行い目標を達成した。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・団体の活動については、住民が積極的に景観形成活動に取り組んでおり、特に課題等は生じていないものの、私有地の雑草・雑木の繁茂が景観を損ねている状況がある。 ・住民自らが沖縄らしい景観の保持活動に取り組むことで、日常的な景観形成への関心が高まってはいるが、観光客等の島外からの来島者が持つ印象について把握しきれていない。	・本事業による美化・緑化活動にとどまらず、景観を損ねている場所の対策等を行うことで、島全体としての景観の保全・向上に資することができると考えられる。 ・景観に対する印象等について、アンケートを実施するなどにより、来島者による本村景観への印象を把握することで、事業実施箇所の見直しや、手法の見直し等の検討を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・私有地における雑草・雑木繁茂への対処としては、区の取り組み等の中で対応していけないか、各区の区長等と調整を行っていき、改善に努めていく。 ・赤瓦、石垣、フクギ等が織り成す伊是名集落の重点地区の景観を後世に残していくため、今後も引き続き本事業を実施する。30年度は景観づくりについてアンケート調査を実施し、観光地としてふさわしい景観であると感じるか等の確認を通して、本事業の実施箇所等について必要に応じて再検討を行うことで、観光客を迎えるに際して快適な観光地となるように努めていくとともに、沖縄らしさを感じさせる景観の保持・創出を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>1,000</td><td>1,000</td><td>800</td><td>200</td><td>0</td></tr></table> 伊是名村 1,000千円 補助金 1,000千円 景観形成団体 5団体 1,000千円 伊是名集落 200千円 仲田集落 200千円 諸見集落 200千円 内花集落 200千円 勢理客集落 200千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,000	1,000	800	200	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,000	1,000	800	200	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付要綱に基づき決定しており、妥当である。 ○予定通り執行されており、妥当である。 ○実績報告に基づき書類等検査し、経費については対象経費に限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑧	尚円王マラソン大会支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア			
					観光リゾート産業の振興			
担当部課名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成28年度～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)			
事業内容	尚円王マラソン大会の受入体制の強化、イメージアップを図るため、大会運営を支援する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			28年度	29年度	年度	年度	年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	11,000	5,000				
		(b) 予算現額	11,000	5,000				
		(c) 増減額 (b-a)	0	0				
		(d) 繰越額	—	—				
		A. 計 (b+d)	11,000	5,000				
	B. 執行済額		11,000	5,000				
	うち交付金充当額		8,800	4,000				
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%				
予算の状況の説明		活動目標を計画どおり達成でき、予算執行も適正であったと考える。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	尚円王マラソン大会の支援		目 標	(大会の支援)	(大会の支援)	()	()	
			実 績	大会の支援	大会の支援			
達成状況説明	3km、5km、10km、ハーフのコースを設定し、大会に係る備品や消耗品等を整備した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (30年度)
	参加者:600人		目 標	()	(900名)	(600人)	()	()
			実 績		523名	199名		
	【H30成果目標】 島外からのエントリー者数		目 標	()	()	()	()	293人
	進捗状況説明	参加者については、申込人数が199名、当日参加者が197名(内訳 3km:43名、5km:15名、10km:35名、ハーフ:104名)で目標を下回った。 定員数は900名であったが、ネット・新聞等を活用した周知がうまく出来なかったこと、認知度の低さ、同日に他市町村で同様のイベントがあったこと等が目標を達成できなかった主な要因となっている。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・近隣における他市町村の類似イベントとの日程の重なりは、交通面で不利を抱える本村におけるイベントの参加者が少なくなる要因となってしまうことから、日程の重複を避けるようスケジュールの見直しや本イベントの魅力向上に向けた取り組みを検討する必要がある。 ・参加者が大会に参加するに際して、把握すべき情報（宿泊施設の状況や交通ルート等）が分かりづらく、参加するかどうかの検討を行い難かったという声があった。	・日程については可能な限り重複を避けるとともに、参加者の満足度を高めることで、本イベントのファンを増やし、リピーターの確保、ロコミ等による参加者増等を目指す必要がある。 ・気軽に参加できる大会として認知してもらえるよう、宿泊施設の有無（受入体制の確保）や交通ルート等の情報を分かりやすく周知できるように検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・他市町村の類似イベントの実施団体に事前に日程の確認を行う等の情報収集に努めるなど、日程重複が生じないよう可能な限り努めていく。また、レース後の交流会を開催するなど、レースそのもの以外での付加的な要素を検討し、参加者が楽しめるような大会としていく。 ・宿泊施設については、当日の宿泊施設の状況等の事前把握に努めることで、問い合わせがなされた際に円滑に情報提供できるように努めるほか、交通手段や交通ルートについては、HPやSNS及び、大会パンフ・チラシにて情報を示すなどして、村外からの参加者が気軽に参加しやすい大会とできるよう、検討を行っていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>5,000</td><td>5,000</td><td>4,000</td><td>1,000</td><td>0</td></tr></table> 伊是名村 交付金対象事業費 5,000千円 補助金 5,000千円 伊是名尚円王マラソン大会実行委員会 5,000千円 運営費補助 ふれあいパーティー出演料、音響・照明、広告料、備品購入費、安全強化備品					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,000	5,000	4,000	1,000	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,000	5,000	4,000	1,000	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会形式の団体への支出であり、選定については妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。											

市町村名	伊是名村										
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1-⑨		美ら島ママチャリ耐久レース支援事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-3-(12)-ア		
									観光リゾート産業の振興		
担当部課名	商工観光課			事業実施 (予定)年度		平成29年度～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ-1-(1)	
事業内容	伊是名美ら島ママチャリ耐久レースを通して、観光客の誘致を図る。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			29年度	年度	年度	年度	年度				
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	5,000								
		(b) 予算現額	5,000								
		(c) 増減額(b-a)	0								
		(d) 繰越額	—								
		A. 計(b+d)	5,000								
	B. 執行済額		5,000								
	うち交付金充当額		4,000								
	次年度繰越額		0								
	執行率(%) (B/A)		100%								
予算の状況の説明		計画どおり執行し、適正であったと考える。									
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況							
				29年度	30年度	31年度	32年度				
	ママチャリ耐久レースの支援:1回			目 標	(1回)	()	()	()			
				実 績	1回						
達成状況説明	計画どおり支援を実施した。										
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (30年度)			
	ママチャリ耐久レースの実施:1回			目 標	()	(1回)	()	()	()		
				実 績		1回					
	【H30成果目標】 島外からのエントリー者数			目 標	()	()	()	()	197人		
	進捗状況説明	計画通り支援を行ったことで、イベントの開催を予定どおり行うことができた。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・試行錯誤しつつ初の開催に取り組んだ結果、29年度の実施に際しては、事故等は生じなかった。参加者数が増加すると、大会運営において安全管理が行き届かなくなる可能性が生じることから、引き続き安全なイベント開催を目指す必要がある。	・引き続き安全なイベント開催を実現していくための安全管理については、各自の役割分担の見直しなど、管理体制の合理化に努めることが、事故等の未然防止につながるものと考えられる。
今後の取り組み方針		
・平成29年度に実施したレースにおける反省点等を実行委員会で検討し、人数が増となった場合における人員配置の必要な箇所や人数の見直しなど想定が必要な箇所を洗い出すことにより、安全管理体制に徹底して取り組んでいける体制を構築していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>5,000</td><td>5,000</td><td>4,000</td><td>1,000</td><td>0</td></tr></table> 伊是名村 交付金対象事業費 5,000千円 補助金 5,000千円 伊是名美ら島ママチャリ 耐久レース実行委員会 5,000千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,000	5,000	4,000	1,000	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,000	5,000	4,000	1,000	0										

資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実行委員会形式の団体への支出であり、選定については妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。

市町村名	伊是名村										
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1-⑩		観光施設整備事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(12)-ア		
									観光リゾート産業の振興		
担当部課名	商工観光課			事業実施(予定)年度		平成29年度～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(1)	
事業内容	本村の観光名所である二見ヶ浦海岸を一望できる展望台の整備を行う。										
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(31年度)										
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況				29年度	年度	年度	年度	年度		
			(a) 当初予算額		2,337						
			(b) 予算現額		2,719						
			(c) 増減額(b-a)		382						
			(d) 繰越額		—						
			A. 計(b+d)		2,719						
			B. 執行済額		2,719						
			うち交付金充当額		2,175						
			次年度繰越額		0						
			執行率(%) (B/A)		100.0%						
予算の状況の説明		活動目標を計画どおり達成でき、予算執行も適正であったと考える。									
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況						
						29年度	30年度	31年度	32年度		
	展望台整備設計業務の実施				目 標	(実施)	()	()	()		
					実 績	実施					
達成状況説明	地域の観光資源である二見ヶ浦海岸を一望できる展望台整備を行うための実施設計に計画どおり取り組んだ。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)	
					目 標	()	(完了)	()	()	()	
	実施設計完了				実 績		完了				
	【H31成果目標】入域観光客数				目 標	()	()	()	()	36,494人	
	進捗状況説明	本村特有の自然を活かした魅力の発信による観光誘客を推進するため、観光名所である二見ヶ浦海岸を一望できる展望台整備を30年度に着手するべく、実施設計を完了した。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・30年度において、本事業で整備する施設の工事について、円滑に整備完了がなされるよう、事業がスムーズに推進できるような発注計画を立てて、取り組んでいく必要がある。	・発注に向けた準備に早期に取り組むことにより、入札不調等に備えて事業の計画期間を見込みより長くとることが可能となる。
今後の取り組み方針		
・30年度における交付決定に合わせて事業の執行に向けた入札等の契約手続きを速やかに行えるよう、入札の実施に向けた積算等の精査を早期に終了させるよう努めることで、早期の入札実施につなげていくとともに、施工時においては施工事業者との連絡体制を密にすることで、進捗管理を徹底し、極力、繰越等が発生しないように努めていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,719</td><td>2,719</td><td>2,175</td><td>544</td><td>0</td></tr></table> 伊是名村 交付金対象事業費 2,719千円 業務委託 2,719千円 → (株)AMS設計 2,719千円 実施設計業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,719	2,719	2,175	544	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,719	2,719	2,175	544	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、指名競争入札により選定したので妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については、建築設計業務等積算基準及び設計業務委託等技術者単価に基づき積算したことから適正であったと考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。											

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①	伊是名村自動車航送コスト負担軽減事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア				
				交通・生活コストの低減				
担当部課名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-9			
事業内容	離島の不利生を解消し、定住促進を図るため、沖縄本島の今帰仁村運天港と本村を結ぶフェリーの自動車航送運賃を軽減する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	9,830	11,757	11,757	11,982	13,001	
		(b) 予算現額	11,130	11,923	12,028	13,060	13,340	
		(c) 増減額(b-a)	1,300	166	271	1,078	339	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	11,130	11,923	12,028	13,060	13,340	
	B. 執行済額		11,006	11,923	12,028	13,060	13,340	
	うち交付金充当額		8,804	9,538	9,622	10,448	10,672	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		年間利用台数が、年々増加傾向で推移しており、当初見込を超過することとなったことから、339千円増額している。活動目標の達成状況どおり実施し予算執行も適正と考えられる。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	自動車航送コスト支援の実施		目 標	(負担軽減)	(負担軽減)	(負担軽減)	(負担軽減)	
			実 績	負担軽減	負担軽減	負担軽減	負担軽減	
達成状況説明	村内住民の沖縄本島との唯一の交通手段である船舶において、車輛航送運賃の助成を行ったことで、定期的に本島との往来を行うに際しての不利性が緩和されたことで、教育・医療・福祉の充実と定住条件の向上・村民の負担軽減に寄与した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	自動車航送コスト負担軽減数:6,000台		目 標	()	(5,000台)	(5,733台)	(6,000台)	()
			実 績		5,755台	6,294台	6,383台	
	【H30成果目標】 沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたか(80%以上)を含め、島民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目 標	()	()	()	()	80%
	進捗状況説明	目標台数は6,000台としたが、コスト負担軽減事業の周知・広報及び利用促進を図ることで、6,383台と目標を上回ることができた。村内住民の沖縄本島との唯一の交通手段である船舶の車輛航送運賃の助成を行うことで村民の渡航に係る不利性の軽減に寄与した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・土日・祝祭日や大型連休などにおいては、船舶の利用者が増え、旅客・自動車航送券の発券所が混雑するため、船の定時運航に支障をきたす場合があった。要因としては、負担軽減申請書を乗船券購入時に提出しなければならない中で、発券所にて申請書へ記載する住民が多数にのぼる事や、窓口の対応が限られた人数となっている事などが考えられる。	・窓口の混雑解消に向けて、事前の申請書記入の依頼や、通常の乗船者等への対応も含めた、窓口対応の体制見直しを検討することで、出航前の混雑緩和に寄与し、定時運航が確保できるようになると考えられる。
今後の取り組み方針		
・負担軽減申請書について、事前に申請書に記入の上乗船券を購入していただけるよう広報等を行い、周知を図ることで、住民に対して協力を依頼していく。併せて、窓口対応が限られている現状の見直しとして、混雑解消を目的としたQRコードシステムの導入等について、検討を行うなど、窓口の混雑解消に向けた取り組みの検討を行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>55,814</td><td>13,340</td><td>10,672</td><td>2,668</td><td>42,474</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	55,814	13,340	10,672	2,668	42,474
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
55,814	13,340	10,672	2,668	42,474										
伊是名村 【一般会計】 交付対象事業費 13,340 千円 伊是名村船舶運航事業 特別会計へ繰出 繰出 伊是名村 【船舶運航事業特別会計】 1台あたり助成額(2,090円) 総事業費(自動車航送運賃総額) 55,814 千円 6,383台 × 2,090円 = 13,340 千円 (補助額) 請求 【住民キップ購入】 6,383台 受益者負担 42,474 千円 (交付対象外経費)														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○船舶運航事業特別会計において、自動車航送券の発券及び集計を取り扱っていることから支払先は妥当と考えられる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○住民が航送券を購入した実績を踏まえて事業を実施しており適正な予算規模と考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○7割強を受益者が負担していることから、負担関係は妥当であると考ええる。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②	離島食品・日用品輸送費等支援実証事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア				
				交通・生活コストの低減				
担当部課名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成28年度～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-9			
事業内容	離島における割高な生活コストの軽減を図るため、沖縄本島から本村へ輸送される食品や衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)							
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			28年度	29年度	年度	年度	年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	7,655	5,682				
		(b) 予算現額	2,681	5,682				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 4,974	0				
		(d) 繰越額	—	—				
		A. 計(b+d)	2,681	5,682				
	B. 執行済額		2,681	3,954				
	うち交付金充当額		2,144	3,162				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		100%	70%				
予算の状況の説明		昨年度の実績値を基に予算措置していたが、輸送実績が見込みより低下したことにより1,728千円の不用額が生じた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	年度	年度	
	食品、衣類、履物、日用品、医薬品、保健医療用具、器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援		目 標	(負担軽減)	(負担軽減)	()	()	
			実 績	負担軽減	負担軽減			
達成状況説明	村内住民の生活物資ルートである船舶航路事業において、航路貨物取扱業者への貨物運賃輸送経費の助成を行ったことで、本島と比較して割高な生活コストの負担軽減している。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (27年度)	28年度	29年度	年度	目標値 (30年度)
	沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差 (沖縄本島を100とした場合の指数)の縮小		目 標	()	(価格差縮小)	(価格差縮小)	()	()
			実 績		価格差縮小	価格差縮小		
	【H30成果目標】 生活必需品等の価格について沖縄本島を100とした場合の本村の指標における事業実施前との差		目 標	()	()	()	()	-2.6以下
	進捗状況説明	H28年指標(126.9)よりもH29年では(115.1)と価格差は縮小している。 今後も本事業を有効活用し、価格差縮小につながるよう継続して推進し、本村のさらなる定住条件の向上を図る。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・未登録事業者に対して参加を呼びかけ、本事業に賛同してもらうことで、より島民の生活コストの軽減を図る必要がある。	・本事業の取り組みや実際にどのような手続きが必要になるか等、本事業の内容・効果について、未登録事業者へ周知を行うことが、新規加入を促す呼びかけを行うに際しては有用と考えられる。
今後の取り組み方針		
・村内の未登録事業者の加入促進を図るため、本事業の取組内容や申請手続きの方法等を周知するとともに、申請に対して、どういった点に困っているのか等聴き取りを行う。登録業者を増やすことで、住民の生活コストの更なる軽減に努めていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,954	3,954	3,162	792	0

伊是名村
【一般会計】

交付対象事業費
3,954 千円

伊是名村船舶運航事業
特別会計へ繰出

繰出

伊是名村
【船舶運航事業特別会計】

交付対象事業費
3,954 千円

補助

【航路貨物輸送取扱業者】
運天港 → 仲田港

【北部港運株式会社】

(貨物運賃輸送経費)
3,954 千円

請求

登録申請等

日用品・生活物資等
の輸送・納品

村内小売店(登録事業者) 5店舗

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○島内への生活輸送物資の唯一の輸送ルートである航路の貨物輸送取扱業者であり、支出先の選定方法は妥当と考えられる。 ○島内への貨物輸送実績を踏まえ、予算規模としては適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	伊是名村														
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】															
事業番号・事業名	2-③		高齢者福祉施設整備事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(3)-7						
									高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせる環境づくり						
担当部課名	住民福祉課			事業実施(予定)年度		平成28年度～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-4					
事業内容	本村で一カ所しかない高齢者福祉施設の需要増加による受入に対応するため、高齢者福祉施設を機能強化する。														
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(30年度)														
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()														
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度		29年度		年度		年度		年度				
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,500		100,000										
		(b) 予算現額	6,588		108,015										
		(c) 増減額(b-a)	88		8,015										
		(d) 繰越額	—		—										
		A. 計(b+d)	6,588		108,015										
	B. 執行済額		6,588		108,015										
	うち交付金充当額		5,270		86,411										
	次年度繰越額		0		0										
	執行率(%) (B/A)		100%		100%										
予算の状況の説明		事業実施に際しての積算精査の段階において、単価入れ替え等を行ったこと等から、事業費が8,015千円増額したが、事業内容については当初予定どおり実施することができた。													
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況											
					28年度		29年度		年度		年度				
	高齢者福祉施設強化整備の実施			目 標	(実施)		(実施)		()		()				
				実 績	実施		実施								
達成状況説明	社会福祉法人へ補助し、整備を実施した。														
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値(年度)		28年度		29年度		年度		目標値(30年度)	
	高齢者福祉施設強化整備の完了			目 標	()		(完了)		(完了)		()		()		
				実 績			完了		完了						
	【H30年度】増築した施設の稼働率			目 標	()		()		()		()		70%		
	進捗状況説明	社会福祉法人(いぜな会)へ補助を行い、整備が完了したことで目標を達成した。短期入所施設6床分を新たに増床することができ、ピーク時には飽和状態となっていた施設について、緩和がなされ、増加する受入需要への対応が可能となった。													

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業により6床分の短期入所施設を増床したことで、ピーク時には飽和状態となっていた施設運営について、必要数の確保が期待できるようになった。 ・ 後は、整備した施設が適切に稼働し、運営がなされているかを適宜確認する必要がある。	・四半期毎に社会福祉法人から報告する仕組みとすることで、整備した施設の稼働状況について定期的な確認を行うことが可能となる。
今後の取り組み方針		
・今回整備した施設は、計画どおり平成30年4月から供用開始され施設運営が始まっている。四半期毎の稼働状況の確認を踏まえて適切な運営がなされているかを今後も継続して確認していくとともに、関係機関が連携し村内の福祉サービスの向上を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費			交付対象 外経費
		交付金 充当額	市町村 負担金	
116,625	108,015	86,411	21,604	8,610

伊是名村
108,015千円

補助金
108,015千円

→

社会福祉法人 いぜん会
116,625千円
(うち交付対象外経費 8,610千円)

伊是名村老人福祉
施設整備費補助金

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、村内唯一の高齢者福祉施設の運営法人であることから、妥当であった。 ○予算規模は、事業内容に見合っており適正であった。 ○増床した施設に伴うその他の整備については、受益者の負担としており、負担関係は妥当であった。 ○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-①	人材育成事業(日高小との交流事業)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－イ			
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進			
事業内容	異なる生活圏で暮らす子ども達が、それぞれの地域を訪れ、その地域の自然や歴史、生活に触れ、体験学習・交流学习を通して広い視野と協調の精神を養うことを目的として、伊是名村の小学生を北海道に派遣し、日高小学校との交流学习・体験学習を実施した。 具体的な取り組みとして、日高小学校(6年生対象)は11月頃、伊是名小学校(6年生対象)は2月頃に各小学校を訪問する。 ウインタースポーツ体験や学校訪問を行うとともに、伝統芸能等を相互に紹介し、それぞれの地域の自然や文化について学ばせる取り組みを実施した。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	1,499	2,000	1,606	1,524	2,100	
		(b) 予算現額	1,499	2,000	1,606	1,570	2,100	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	46	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	1,499	2,000	1,606	1,570	2,100	
	B. 執行済額		1,499	1,978	1,533	1,570	1,903	
	うち交付金充当額		1,199	1,582	1,226	1,256	1,522	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.9%	95.5%	100.0%	90.6%	
予算の状況の説明		予定通り執行した。 複数社からの見積もりによる価格の見直しを行った結果、当初積算時に算定した額よりも減となったことから、10%程度の不用が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	日高小学校との交流・体験学習の実施 (児童:16名、引率者:5名)	目 標	(児童19名 引率 5名)	(児童12名 引率 5名)	(児童11名 引率 5名)	(児童16名 引率 5名)		
実 績		児童16名 引率 5名	児童11名 引率 5名	児童11名 引率 5名	児童13名 引率 5名			
達成状況説明	当初16人の参加を見込んでいたが、体調等の理由から、最終的には児童13人の派遣となった。 沖縄とは異なる北海道の自然や生活に触れることで、子供たちの視野を広げ、自然体験や文化交流をとおして互いの地域を理解し、それぞれの地域の自然や伝統文化の大切さを実感してもらうことができた。日高町及び北海道の気候や文化・自然について事前学習を実施したほか、事前に手紙での児童間の自己紹介を実施するなどの事前のやりとりを行った上で、交流会においては村の歴史や自然・文化等について発表するなどの取り組みを実施した。 沖縄の伝統のエイサーなどを日高小の児童・地域の方々に披露し、沖縄の文化を伝えた。 北海道で交流体験の報告会を開き、児童や地域住民に報告したほか、感想文・派遣写真等の展示も行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	児童の協調の精神等の向上についてまとめた報告書の作成	目 標	()	(作成)	(作成)	()	()	
		実 績		作成	作成			
	【H30成果目標】 保護者へのアンケートで、県外の人との交流により、児童の視野が広まったと感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する。	目 標	()	()	()	()	80%	
		進 捗 状 況 説 明	交流・体験学習を実施し、児童の協調の精神等の向上についてまとめた報告書を作成した。 村当局者や保護者向けに交流・体験学習の報告会を行った。報告会は児童が行い、交流・体験学習を通しての出来事、体験や反省等をグループ毎に発表した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・事業を効果的かつ円滑に行うには、両校の連携体制が重要になるため、北海道での日程及び交流内容等については、双方で綿密に練り上げ事業に臨む必要がある。 ・環境に違いがあるため、事前に危険予知活動など、安全対策に留意する必要がある。 ・本村においては離島という地域性から容易に他校との交流が行えず、且つ幼小中それぞれ1校しかないため、子ども達は幼少期から同じクラスで同じクラスメイトと中学校を卒業するまで学ぶことになる。このため、児童生徒の視野を広げるための活動には継続して取り組んでいく必要があるとともに、本事業が目的を達成できているかどうか、検証を行う必要がある。	・日高小学校側との連携を図り、相互の共通理解を図る事で円滑な運営に繋がるものとする。 ・島内における条件（環境面や生活スタイル等）とは大きく異なる場合がありえることから、過去の取組状況等を踏まえ、安全対策を検討していくことで、円滑な事業実施に資するものと考えられる。 ・児童生徒が広い視野を持てたかどうかを検証することが可能な指標を設定するなど、成果目標の見直しを行うことで、事業の検証を行うことが可能となる。
今後の取り組み方針		
・日高小側と定期的な会議を開催し、事業の進捗状況及び内容等について相互に確認を行うことで、円滑な運営が行えるよう取り組んでいく。 ・団体で1つの施設に宿泊することから、担当及び引率者は、宿泊施設マップにて避難通路の事前確認や打ち合わせを事前に十分に行うなど、万一の事態に備えた安全管理・想定を行い、円滑な事業実施に向けて取り組んでいく。 ・30年度の成果目標として、派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が島内ではできない経験をすることができたか等の指標を設定し、事業の検証を実施していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr><tr><td>1,903</td><td>1,903</td><td>1,522</td><td>381</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	1,903	1,903	1,522	381	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
1,903	1,903	1,522	381	0										
伊是名村 1,903千円 → 委託料 1,903千円 → (株)ジャンボツアーズ 1,903千円 （平成29年度(第24次)伊是名村少年の翼派遣事業に係る業務 児童数：13名 引率者数：5名														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は例規に則った選定となっており妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については事業内容及び児童と引率者の人数から勘案して適正なものであったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予め受益者負担として参加者が負担する項目を設けていることから応分の負担がなされており、受益者との負担関係については妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	伊是名村														
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】															
事業番号・事業名	3-②		児童生徒島外諸教育活動支援事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-5-(2)-7						
									教育機会の拡充						
担当部課名	教育振興課			事業実施 (予定)年度		平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ-3-(1)					
事業内容	島外の人との競争や交流の機会を増やすことで児童生徒に広い視野を持たせることを目的として、島外で開催されるスポーツ大会や文化事業発表会に参加する児童生徒に対し、渡航費を支援する。														
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)														
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他 ()														
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度		26年度		27年度		28年度		29年度				
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,134		4,230		4,230		1,700		2,060				
		(b) 予算現額	2,834		4,230		1,930		2,160		2,598				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 300		0		▲ 2,300		460		538				
		(d) 繰越額	—		—		—		—		—				
		A. 計(b+d)	2,834		4,230		1,930		2,160		2,598				
	B. 執行済額		1,917		2,339		1,789		1,952		2,598				
	うち交付金充当額		1,533		1,871		1,431		1,561		1,937				
	次年度繰越額				0		0		0		0				
	執行率(%) (B/A)		67.6%		55.3%		92.7%		90.4%		100.0%				
予算の状況の説明		当初を上回る派遣回数があり、年度途中で予算不足が生じたため他事業より538千円を流用し実施した。													
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況											
					26年度		27年度		28年度		29年度				
	島外教育活動への派遣費の支援			目 標	(派遣)		(島外諸教育 への派遣)		(島外諸教育 活動への派 遣支援)		(島外諸教育 活動への派 遣支援)				
				実 績	派遣		島外諸教育活動への派遣(31回実施)		島外諸教育活動への派遣支援		島外諸教育活動への派遣支援				
達成状況説明	児童生徒が島外諸教育活動に参加するため、離島という地理的条件のために生じる経費(船賃、宿泊費の一部)を補助することで派遣の支援を行った。														
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値 (年度)		27年度		28年度		29年度		目標値 (30年度)	
	大会等派遣児童生徒数(累計):300人以上			目 標	()		(90人)		(300人)		(300人)		()		
				実 績			78人 (延べ384人)		391人		508人				
	【H30成果目標】 派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が島内ではできない経験をすることができたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する。			目 標	()		()		()		()		80%		
	進捗状況説明	当初計画を大きく上回る児童生徒を派遣することができた。 ※なお、27年度は実数であり、延べ数(年間累計)にすると384人の実績となる。													

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・保護者からの意見として、宿泊費の上限額について見直しを行ってほしいとの要望がなされている。 ・本事業により派遣ができたことで、児童・生徒の成長に資しているものと考えられるが、派遣実績数に代わる何らかの指標により事業効果を把握する必要がある。	・宿泊費の上限額の改定については、本村における補助の考え方および他市町村の派遣事業の状況を踏まえ、検討する必要がある。 ・第三者の視点による検証として、日常的に児童・生徒と接してきている保護者の視点により検証できないか検討することが、事業効果の把握に際して有用ではないかと考えられる。
今後の取り組み方針		
・宿泊費については、当面上限額の見直しは行わず、青年の家等の安価な施設を利用する、日帰りでの参加の行程が組めないか検討するなどにより、保護者の負担軽減が図られるように取り組んでいく。 ・本事業によって、児童・生徒が島内ではできない経験をすることができたかを保護者に対するアンケート調査を実施することで、事業効果の把握を行えるよう試みることで、当該事業の在り方について検証していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,598</td><td>2,422</td><td>1,937</td><td>485</td><td>176</td></tr></table> 伊是名村 2,598千円 補助金 2,598千円 学校・団体 (児童生徒・指導者) 2,598千円 島外教育活動に係る補助金 (うち交付対象外経費176千円)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,598	2,422	1,937	485	176
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,598	2,422	1,937	485	176										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助対象者については交付要綱等に従って決定しており、支出先の選定方法は妥当と考える。 ○予算規模については、派遣人数等に応じたものであり、適正な規模であったと考える。 ○渡航費及び宿泊費(上限有り)が主な補助対象経費となっておりその他は個人の負担となっていることから、受益者との負担関係は妥当と考える。 ○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-③	幼稚園預かり保育支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
				地域における子育て支援の充実				
担当部課名	教育振興課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	保護者の育児における負担感の軽減を図り、保護者が安心して仕事ができる環境を整備するため、幼稚園預かり保育に必要な嘱託保育士を配置し、教育時間終了後の預かり保育を実施する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	849	901	1,175	2,501	2,783	
		(b) 予算現額	849	901	1,012	2,026	2,783	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 163	▲ 475	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	849	901	1,012	2,026	2,783	
	B. 執行済額		779	693	1,012	1,788	2,193	
	うち交付金充当額		622	554	809	1,430	1,751	
	次年度繰越額			0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		91.8%	76.9%	100.0%	88.3%	78.8%	
予算の状況の説明		保育免許保持者2名の雇用を想定していたが、保持者1名、無資格者1名の雇用となったことから590千円の不用額が生じたが、概ね計画どおりに執行することができた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	保育士の雇用:2人		目 標	(1人)	(1人)	(2人)	(2人)	
			実 績	1人	1人	2人	2人	
達成状況説明	平成28年度よりすべての4歳児及び5歳児を対象にした、幼稚園2年教育がスタートし、2年目となる本年度も保育士2名を雇用できた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)	
	預かり保育を利用する幼児数:30人		目 標	()	(16人)	(30人)	(30人)	()
			実 績		15人	25人	26人	
	【H30成果目標】 保護者へのアンケートで、預かり保育により育児の負担感が軽減されたと感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。		目 標	()	()	()	()	80%
	進捗状況説明	預かり保育を利用する幼児数については、30人(全園児の9割)を想定していたが、家庭保育希望者がいたため目標を下回った。しかしながら、幼稚園での預かり保育を希望する保護者全員の希望に沿うことができたことから、安心して仕事ができるための支援には繋がったものと考えられる。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村内には夫婦共働きの保護者が多く、教育課程に係る教育時間以後、幼児の面倒を見ることができない上、学童保育がない。その中で、預かり保育を継続し続けるためには、保育経験者の雇用を継続して行う必要がある。 ・しかしながら、現状の2名体制では、急な休みが必要となった場合に、預かり保育に支障をきたす場合が生じうるため、保育士の就労環境を見直し、休暇等への対応が可能な体制を構築する必要がある。 ・本事業により預かり保育を実施したことで、村内における子育て環境の改善に資しているものと考えられるが、預かり保育を利用した園児数に代わる何らかの指標により事業効果を把握できないか検討する必要がある。	・安定的な保育体制の確保のためには、人員の追加、もしくは何らかの形で補充を行えるような体制の確保が望ましいと思慮される。 ・預かり保育利用者に直接に本事業における効果の実感度合い等を確認することで、事業効果の把握に繋がるものと考えられる。
今後の取り組み方針		
・保育士免許保持者を2名以上配置できる体制を目指し、新たな保育士の雇用ができないか検討するとともに、雇用している保育士の急な休暇時における、代替の保育要員を予め複数名確保しておき、都合のあう方に代替要員として勤務してもらうなど、安定的な保育要員確保が可能な体制の構築に向けて、検討を行う。 ・30年度においては、預かり保育によって保護者の育児における負担感が軽減されたかを含め、アンケート調査により当該事業のあり方を検証していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,193</td><td>2,189</td><td>1,751</td><td>438</td><td>4</td></tr></table> 伊是名村 2,193千円 賃金 2,193千円 預かり保育職員 2,193千円 預かり保育職員賃金 2名 (うち交付対象外経費4千円)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,193	2,189	1,751	438	4
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,193	2,189	1,751	438	4										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○賃金については村規定に沿った形での支出となっており、妥当と考える。 ○予算規模については預かり保育を実施するための最低限の規模での予算規模となっており、適正と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については賃金のみでの支出であり、確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-④	グッジョブ連携推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7				
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成27年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進			
事業内容	児童生徒に自己理解・自己実現に向けた意欲の向上、また、目的意識の高揚や就業意識の向上を図るため、小学校ではジョブシャドウイング、中学校では職場体験等のキャリア教育を実施する。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)							
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	年度	年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,569	990	946			
		(b) 予算現額	1,120	850	946			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 449	▲ 140	0			
		(d) 繰越額	—	—	—			
		A. 計(b+d)	1,120	850	946			
	B. 執行済額		769	842	560			
	うち交付金充当額		614	673	448			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		68.7%	99.1%	59.2%			
予算の状況の説明		当初、マナー講座の講師謝礼、中学校において移動用バスの使用料・保護者引率旅費等を予定していたが、マナー講座については県コンベンションビューローの事業を活用できたことから、謝礼が不要となった。移動バス使用料については、人数が少なかったことから利用を控えた。また、保護者引率旅費が不要となった、などの理由から執行率が低くなった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	年度	年度	
	小学校:ジョブシャドウイングの実施 小学校5年生:16人 中学校:職場体験学習の実施 中学校2年生:10人	目 標	(小学生15人 中学生19人)	(小学生16人 中学生10人)	()	()		
		実 績	小学生16人 中学生17人	小学生11人 中学生9人				
達成状況説明	本事業を通して、児童生徒に自己理解・自己実現を図る意欲を向上させ、目的意識の高揚や就業意識の向上を高める活動の推進に向け、家庭・地域・行政が互いに連携を強化するとともに、小学校では地域教育資源の活用、中学校では勤労観・職業観を身に付けさせることなどを目的に、それぞれの活動を実施した。 具体的な内容としては、受け入れ事業所の協力により小学校が10月、中学校が9月に職場体験を実施することができた。 人数については、転入・転校により目標と対象人数に差異が生じた。小学生については15人が対象であったが結膜炎により4人欠席、中学生は9人が対象となり、その全員が参加した。 中学校の職場体験は本年度より、5日間の職場体験ウィーク期間を沖縄本島で実施し島外の事業所での職場体験を3日間(移動等含めると5日間)実施することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	児童生徒の目的意識の高揚や就業意識向上についてまとめた報告書の作成	目 標	()	(小5:11人 中2:16人)	(報告書 作成)	(報告書 作成)	()	
		実 績		小5:11人 中2:16人	報告書 作成	報告書 作成		
	【H30成果目標】 キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目 標	()	()	()	()	80%	
進捗状況説明	小中学校それぞれの活動について、児童生徒の目的意識の高揚や就業意識向上についてまとめた報告書を作成した。 職場体験等を終えてから児童生徒の、働くこと、仕事をするに關しての意識に変化が見られ、協調性の精神の高揚が図られている。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・離島である不利性として、見知った人間としか付き合うことがない、そもそも付き合いのある人間が少ないなどの点があげられる。そのため、人との接し方に課題がある。 ・近年、郷友意識が希薄になっていることから、島外に出ている村出身者からの情報提供が乏しく、本村を出たあとにどのような職業があるのか等、島外の情報に触れる機会が少ない。 ・キャリア教育を行っていくにあたり、児童生徒自らが将来の職業や目標をしっかりと見極めるため、目的意識を高めていく必要がある。	・職場体験を意識した指導を日常的に実施することで、普段付き合うことのない人との接し方の改善に繋がるものと考えられる。 ・郷土出身者の働き方などを現場で見る機会を設けられれば、本村を出た後の就労に対するイメージをより具体化できるとともに、村出身者の事業所にて職場体験を行うことで、生徒の郷友意識の醸成にもつなげられるのではないかと考えられる。 ・事前学習等により予備知識を備えたうえで、就業体験を行ってもらうことで、「働くこと」についてより具体的なイメージを持つことに繋がり、更なる目的意識の向上に繋がると考えられる。また、児童生徒へのアンケート等により事業効果の確認を行うことで、事業内容で見直すべき箇所がないか、検証が可能となると考えられる。
今後の取り組み方針		
・挨拶や返事など職場体験時において必要な接遇マナーの向上に向けて、日常的な指導を児童生徒に対して日頃から徹底指導に取り組む。 ・郷友会等の事業所等での就労体験の受入が可能となるよう、該当する事業所等への働きかけを行っていく。 ・職場体験を通して人間関係、勤労観や職業観を自ら学ぶことにより、自己実現のために何が必要か、何をすべきなのかを児童生徒に意識づけしていくほか、中学生については、より職業観を身に付けさせるため、引き続き島外での職場体験を3日間確保し、より勤労観等を身に付けられるよう取り組んでいく。また、30年度は、キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか等を質問し、当該事業のあり方を検証していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費			交付対象 外経費
		交付金 充当額	市町村 負担金	
560	560	448	112	0

伊是名村
560千円

旅費
516千円

旅費
516千円

（ 児童生徒及び引率者旅費 ）

役務費
44千円

役務費
44千円

（ 職場体験活動保険料等 ）

資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については村の例規に則って選定しており、妥当であった。 ○予算規模について児童生徒の対象人数を踏まえたものであり適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名伊是名村

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名3-⑤学習支援事業沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所第3章-5-(3)-7

確かな学力を身につける教育の推進

担当部課名教育振興課事業実施(予定)年度平成25年度～33年度沖縄振興基本方針該当箇所Ⅲ-3-(1)

事業内容児童生徒の学力向上及び学校生活や学習上の困難の改善を図るため、村営学習塾の開校及び特別支援員教育支援員、学習支援員を配置する。

効果発現年度■当年度□後年度(年度)

実施方法■直接実施■委託□補助■負担□その他()

予算額・執行額【単位:千円】

(「交付金」+「市町村負担」ベース)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,323	7,628	7,342	14,968	23,510
	(b) 予算現額	6,863	7,628	6,072	16,150	19,965
	(c) 増減額(b-a)	540	0	▲ 1,270	1,182	▲ 3,545
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)	6,863	7,628	6,072	16,150	19,965
B. 執行済額		5,585	5,856	5,648	14,473	19,310
うち交付金充当額		4,467	4,684	4,518	11,578	14,944
次年度繰越額			0	0	0	0
執行率(%) (B/A)		81.4%	76.8%	93.0%	89.6%	96.7%
予算の状況の説明		学習支援員を当初3名配置する予定であったが、2名の確保に留まったことにより、見込額より減となったことから、3,545千円を減額することとなった。また、最終的な勤務実績に基づき支払いを実施した結果、655千円の不用となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H29活動目標(指標)		達成状況				
		26年度	27年度	28年度	29年度	
学習支援員の確保:3人	目 標	(3人)	(3人)	(2人)	(3人)	
	実 績	3人	3人	2人	2人	
週5日程度学習塾を開講	目 標	()	()	(週5日)	(週5日)	
	実 績			週3日	週3日	
達成状況説明	学習支援員については3人配置予定であったが、2人しか確保できず小学校のみ教育活動の支援及び学習に遅れのある児童の支援を行った。 また、学習塾については、民間事業者へ公募型プロポーザルを実施して業者選定、事業費の関係で週3日の開講となったものの、民間学習塾のノウハウを取り入れた高い指導力と充実した内容で実施することができた。また、塾講師が特別支援員を兼務することで、人材を引き続き継続して確保することができた。					

成果目標(指標)及び進捗状況

H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
①平成29年度沖縄県学力到達度調査での村と県の平均正答率の差 小学校 -6.0ポイント以上	目 標	()	(-6.0ポイント以上)	()	()	()
	実 績		-18ポイント			
②平成29年度沖縄県学力到達度調査での村と県の平均正答率の差 中学校 1.0ポイント以上	目 標	()	(1.0ポイント以上)	()	()	()
	実 績		11.3ポイント			
③対象となる児童等の保護者へのアンケートで、特別支援教育支援員の対応への満足度80%以上。	目 標	()	(80%)	()	()	()
	実 績		100%			
進捗状況説明	①小学校については(小5の3教科平均)-18ポイントで目標未達成、②中学校については(中2の5教科平均)11.3ポイントとなり目標を達成した。 ③特別支援教育支援員については、対象となる児童等の保護者へのアンケート調査により、満足度(目標:80% 実績:100%)を確認、目標を達成した。					

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	・塾における学習への姿勢について、放課後の課外活動の感覚の強い生徒がおり、学習マナーの向上を図る必要がある。 ・県到達度調査で小学生が県平均を大きく下回っており、小学生への学力向上を目的とした取り組みが必要となっている。 ・満足度を維持するため、保護者や児童生徒の要望を継続的に把握する必要がある。	・業者と連携して指導することが学習マナーの向上には有用と考えられる。 ・現在は中学生を対象としている学習塾について、小学生も対象とすることで、小学生の学力向上に資することとなると考えられる。 ・要望を把握していくためには、アンケートやヒアリング等を活用し、保護者等の意見を取り入れていく事が有用である。
今後の取り組み方針		
・学習マナーの向上にあたっては、学習塾を学校の延長として、きちんと学習することが必要と感じられるような雰囲気作りを受託業者と検討する。 ・30年度については、委託業務の内容として、特別支援員配置ではなく、小学生を対象とした学習塾の実施により、小学生の学力向上に取り組んでいくほか、学習支援員についても引き続き配置をおこなうべく、早い段階で募集できるように努めていく。 ・アンケートを活用し、保護者等の意見を取り入れることで、引き続き事業の効果を高めていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>19,310</td><td>18,680</td><td>14,944</td><td>3,736</td><td>630</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	19,310	18,680	14,944	3,736	630
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
19,310	18,680	14,944	3,736	630										
伊是名村 19,310千円 共済費 671千円 → 社会保険事務所 671千円 （学習支援員社会保険料 2名） 賃金 4,640千円 → 学習支援員 4,640千円 （学習支援員賃金 2名 （うち交付対象外経費610千円）） 委託料 13,759千円 → （一社）教育振興会 13,759千円 （学習支援事業委託業務 学習塾開講、特別学習支援員の配置） 負担金補助 240千円 → 支援員家賃負担金 240千円 （学習支援員家賃負担金 1名 （うち交付対象外経費20千円））														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については村の例規に則って選定しており、妥当であった。 ○予算規模についてもほぼ見込みどおり執行し、適正である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要な経費となっており、毎月の報告書等により確認、適正と考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村										
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	4-①		伊是名村土づくり支援事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-ウ		
									農林水産物の安全・安心の確立		
担当部課名	農林水産課			事業実施 (予定)年度		平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ-1-(6)	
事業内容	安定的な有機肥料の供給による土づくりの促進及び農作物の生産性の向上のため、沖縄本島からの堆肥購入費用及び輸送費用を支援する。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度				
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	16,793	16,807	35,120	43,900	35,984				
		(b) 予算現額	14,112	16,827	32,960	53,976	35,984				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,681	20	▲ 2,160	10,076	0				
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—				
		A. 計(b+d)	14,112	16,827	32,960	53,976	35,984				
	B. 執行済額		14,112	16,827	32,960	53,976	34,452				
	うち交付金充当額		11,289	13,461	26,368	43,180	27,561				
	次年度繰越額		0	0	0	0	0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.7%				
予算の状況の説明		当初積算した金額と、執行した際との金額とで差額が生じたことから、1,532千円の不用額が生じたが、当初予定していた取組は全て執行することができた。									
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況							
					28年度	29年度	年度	年度			
	堆肥導入数量:2,000t			目 標	(3,000t)	(2,000t)	()	()			
				実 績	3,000t	2,000t					
達成状況説明	事業実施が7月になったが、島外の事業者から堆肥原料(完熟品)を確保し、3月に計画数量導入できた。										
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)	28年度	29年度	年度	目標値 (30年度)		
	堆肥の散布を行うことによる地力の向上 (散布目標面積 25ha)			目 標	()	(38ha)	(25ha)	()	()		
				実 績		53ha	41ha				
	【H30成果目標】 さとうきびの単収			目 標	()	()	()	()	5,484kg		
	進捗状況説明	堆肥散布により地力増強につながることを農家へ周知することで、理解が得られたことにより目標よりも多くの面積へ散布することができた。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・堆肥を導入する時期については、ほ場が夏植えか春植えか等で導入する時期にずれが生じることから、計画的な調達により、不足なく堆肥導入をできるように支援する必要がある。 ・堆肥の導入を行う農家を増やしていくことが、島全体における生産性の向上を目指すにあたっては必要である。	・ほ場に堆肥を導入する時期は、夏植え前6月から8月、春植え前2月から4月に集中するので、関係機関と協議して、その時期に合わせた運搬計画を立てる。 ・農家に対し、土づくりを促進することで生産性の向上が図れることを更に周知し、堆肥の散布を促す。
今後の取り組み方針		
・夏植えか春植えか等について現場を確認する中で聞き取りなどにより把握を行い、必要な数量を見積もることで、農家が堆肥を導入する際に、不足のないよう、関係機関と連携しつつ取り組んでいく。 ・堆肥の導入が地力を向上させ、生産性の向上につながることにについて、引き続き各農家へ周知することで、更なる生産性の向上を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>34,452</td><td>34,452</td><td>27,561</td><td>6,891</td><td>0</td></tr></table> 伊是名村 34,452千円 補助金 34,452千円 伊是名村さとうきび糖業振興会 34,452千円 （堆肥原料購入費に係る補助及び堆肥輸送運搬に係る経費の補助）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	34,452	34,452	27,561	6,891	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
34,452	34,452	27,561	6,891	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付要綱に適合する補助対象事業者への支出となっており、妥当である。 ○予算規模は必要量と供給量との比較により妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-②	伊是名村優良繁殖雌牛導入促進事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ				
				農林水産物の安全・安心の確立				
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	本村における畜産業の振興を図るため、計画的に優良繁殖雌牛を導入する肉用牛繁殖農家等に対し、導入費用の一部を支援する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☐ 後年度(年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	28年度	29年度	年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,800	22,500	2,800	4,800		
		(b) 予算現額	10,800	16,920	4,732	4,800		
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 5,580	1,932	0		
		(d) 繰越額	—	—	—	—		
		A. 計(b+d)	10,800	16,920	4,732	4,800		
	B. 執行済額		10,800	16,920	4,732	4,696		
	うち交付金充当額		8,640	13,536	3,785	3,756		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	97.8%		
予算の状況の説明		1頭当たりの助成額を落札価格の1/2以内(上限40千円)に変更し、計画どおり12頭導入した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				25年度	26年度	28年度	29年度	
	優良繁殖雌牛導入頭数:12頭		目 標	(導入)	(確保)	(7頭)	(12頭)	
			実 績	導入	確保	11頭	12頭	
達成 状況 説明	畜産農家と導入計画を協議し12頭の繁殖牛を導入した。優良な繁殖雌牛の導入及び村内飼養頭数の増加が図られ畜産業の振興に寄与した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	26年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	H29年度:12頭(導入率100%)		目 標	()	(50頭)	(7頭)	(12頭)	()
			実 績		38頭	11頭	12頭	
	進捗 状況 説明	畜産農家と導入計画を協議し目標頭数を導入することができた。農家のニーズに合った計画を設定でき、飼育頭数の増加、農家の経営安定及び畜産業の振興に寄与した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・当事業で衰退している零細農家の経営安定化を図るのみならず、新規農家の受け皿の確保、担い手農家等の確保等を図ることで、急激に衰退した本村畜産業の再興に引き続き取り組む必要がある。	・優良繁殖雌牛の導入費用の一部支援を行うことで、計画的に優良雌牛を導入・保留していくことや、その他畜産業の振興に資する取り組みを組み込んでいくことで、本村畜産農家の飼養頭数の増加に繋がるとともに、農家経営の安定に資するものと考えられる。
今後の取り組み方針		
・畜産農家の飼養頭数増加と経営安定を確保するとともに、本村の畜産振興、担い手育成へ繋げるため、牛舎建設または再整備への支援、助成基準の見直し等を含めて制度の再検討を行いつつ、次年度以降の事業実施にむけて関係機関、畜産農家と協議して計画を作成していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>9,850</td><td>4,696</td><td>3,756</td><td>940</td><td>5,154</td></tr></table> 伊是名村 補助金 4,696千円 【畜産農家】 補助金 4,696千円 補助金 4,696千円 (交付対象外経費:農家負担金 5,154千円) 優良繁殖雌牛購入費用 計 9,850千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,850	4,696	3,756	940	5,154
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,850	4,696	3,756	940	5,154										
資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付要綱に適合する補助対象事業者への支出となっており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○導入実績、計画等を踏まえた予算規模となっており、適正であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助率を1／2として農家にも一定の負担が生じていることから、妥当と考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											